

2016年6月11日(土)学び
神の愛「神様はどのような方か」パート9
「神は忠実で真実な方です」

・1ヨハネ1：9

「もし、わたしたちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」

神様は、赦しの神です。

このみことばで語られていることは、なんて私たちにとって慰めの言葉でしょう。私たちは人は罪人です。だれも完全な者、完璧な人はいません。

・1ヨハネ1：10

「もし、罪を犯していないと言うなら、私たちは神を偽り者とするのです。神のみことばは私たちのうちにありません。このみことばによれば、私たちが罪を犯していないというなら、私たちは神を偽り者としてしまいます。」

9節で「神は真実で正しい方」とあり、神には偽りは決してありません。

神は真実で正しい方です。真実で正しい神に私たちが罪を言い表すなら、神は私たちをすべての悪から清めてくださると言っています。

これは、この罪深い私たちにとって、なんとも言えない慰めではないでしょうか。

人は間違いを犯してしまいます。間違いを犯さない人はいないと言ってもいいでしょう。

真実で正しい神は、罪を見逃すことはできません。

犯した罪には必ず代償がついてきます。

しかし、間違い、罪を犯した人にとって真実で正しい神は「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちを清めてくださいます」と言っているのです。

聖書の中に姦淫の場で捉えられた女性の話が出てきます。

見てみましょう。

・ヨハネの福音書8：1～12

「イエスはオリーブ山に行かれた。

そして、朝早く、イエスはもう一度宮に入られた。民衆はみな、みもとに寄って来た。イエスはすわって、彼らに教え始められた。

すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕らえられたひとりの女を連れて来て、真ん中に置いてから、

イエスに言った。『先生。この女は姦淫の現場でつかまえられたのです。

モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするように命じています。ところで、あなたは何と云われますか。』

彼らはイエスをためしてこう言ったのである。それは、イエスを告発する理由を得るためであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に書いておられた。けれども、彼らが問い続けてやめなかったので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」そしてイエスは、もう一度身をかがめて、地面に書かれた。彼らはそれを聞くと、年長者たちから始めて、ひとりひとり出て行き、イエスがひとり残された。女はそのままそこにいた。イエスは身を起こして、その女に言われた。「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか。」彼女は言った。「だれもいません。」そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」) イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」

この箇所ではイエス様の愛の深さに感動します。

イエス様の深い愛に触れたこの女性は、生涯を通してイエス様を愛し、イエス様に従って生きました。

イエス様でさえ人を罪に定めない方です。

ましてや私たち人は、だれも人を罪に定めること、裁くことはできないのです。

私は、日々の中で聞こえてくる様々な事に対して、「人はだれも罪人です。人は弱いのです。どうぞ主が、弱い私たち人の人生に道となって生きる道を教えてくださいのように」と願い祈るのです。人は、イエス様の真実で正しい愛、偽りのない愛に触れる時、歩んでいた方向を変えます。生き方が全くかえられます。

イエス様の真実の愛は、人の心の琴線に触れます。

イエス様が説教をして、その人を変えようとしなくても、イエス様の真実の愛に触れる時人は変わらずにいらなくなります。

この姦淫の場で捉えられた女性も、そして聖書の中にはザアカイというその当時極悪者と言われていた高い税金を不正に取り立てていた取税人だった彼も、イエス様の愛に触れられ時、イエス様から何一つ説教をされたわけではありませんでしたが、イエス様の真実で深い愛に触れた時、彼は自らでこのようにイエス様に宣言しました。

・ルカによる福音書19：8

「主よ。御覧ください。私の財産の半分を貧しい人に施します。また、だれからでも、私がだまし取った物は、4倍にして返します。」

ザアカイは、イエス様の深い愛に触れられて、一瞬にして心を変え、これまでの生き方と全く逆の生き方をはじめました。

・ルカ19：1～10

「それからイエスは、エリコに入って、町をお通りになった。ここには、ザアカイという人がいたが、彼は取税人のかしらで、金持ちであった。彼は、イエスがどんな方か見ようとしたが、背が低かったので、群衆のために見ることができなかった。

それで、イエスを見るために、前方に走り出て、いちじく桑の木に登った。ちょうどイエスがそこを通り過ぎようとしておられたからである。

イエスは、ちょうどそこに来られて、上を見上げて彼に言われた。『ザアカイ。急いで降りて来なさい。きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。』

ザアカイは、急いで降りて来て、そして大喜びでイエスを迎えた。

これを見て、みなは、『あの方は罪人のところに行って客となられた』と言ってつぶやいた。

ところがザアカイは立って、主に言った。『主よ。ご覧ください。私の財産の半分を貧しい人たちに施します。また、だれからでも、私がだまし取った物は、四倍にして返します。』

イエスは、彼に言われた。『きょう、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのですから。

人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。』

この2つの話で、感動するのは、イエス様のお会いしただけで、この二人の罪人は心を入れ替えたということです。イエス様には、偽りのない真実の愛が溢れていたので人はイエス様にお会いするだけで、その愛に触れられることになります。

神が真実であるということを引き続き聖書からみていきましょう。

・2テサロニケ2：13

「私たちは真実でなくても、彼は常に真実である。彼にはご自身を否むことができないからである。」

・1テサロニケ5：24

平和の神ご自身が、あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだを完全に守られますように。

あなたがたを召された方は真実ですから、きっとそのことをして下さいます。

・ローマ4：21

神には約束されたことを成就する力があることを堅く信じました。

聖書で、神はこのように忠実で真実な方であることが表されています。

私たち人は真実ではないですが、神は常に真実です。

イエス様は私たちの霊、たましい、からだを完全に守られる、イエス様は約束されたことを必ず果たされる方です。

神は常に忠実で真実な方です。

人と時には忠実であったり、真実であったりするものですが

神はいつでも常に変わることなく、忠実で真実な方です。

ですから、神にあなたの罪を言い表すなら、神はあなたを赦し、あなたをその罪から不義からきよめてくださいます。

ひとこと祈りましょう。

愛する天のお父様、今日私はあなたの前に私の罪を言い表します。

私の犯した罪を赦してください。私を罪から不義から清めてください。

イエス様にお会いしてイエス様の愛に触れたいのです。

イエス様どうぞ私の心に訪れてください。イエスキリストのお名前によって祈ります。